

## [4] 同格

\*同格という文法用語は何やら難しげで、いまひとつ分かりにくいですが、要は、後ろの語句(節)が前の語句(節)の言い換え、説明になっている関係と考えればよい。したがって、同格という概念を名詞以外の品詞にも拡張して使用することができる。注意点は、同格のカンマを and の代りを取らないこと(特に下線部和訳において)と、同格の接続詞 that と関係代名詞の that を混同しないことである。

## (1) 同格のカンマ

1. English, the international language of the modern world, is spoken and understood on every continent.

「現代の世界の国際共通語である英語は[英語は現代の世界の国際共通語であり]、あらゆる大陸で話されそして理解されている」

2. The Latin from which the Romance languages developed was known as vulgar Latin, the language spoken by the common people.

「ロマンス諸語が発達する元となったラテン語は、一般大衆が話す言語である『平俗』ラテン語として知られていた」

3. So if you want to succeed — indeed, to survive — among the British, you must be able to handle this curious and dangerous phenomenon, the English sense of humor.

「だから、もしイギリス人の間で成功したい、いやそれどころか生き残りたいと思うならば、この奇妙で危険な現象、イギリス人のユーモアのセンスをうまく扱えることが必要である」

\*indeed, to survive は前後ダッシュの挿入句。ダッシュの代わりにカンマで済ませると if you want to succeed, indeed, to survive, among the British, you must ... とカンマの羅列になるので、これを避けたもの。

4. To a European, money means power, the freedom to do as he likes, which also means that, consciously or unconsciously, he says: "I want to have as much money as possible myself and (I want) others to have as little money as possible."

「ヨーロッパ人にとって、お金とは力、つまり自分の好きな通りにする自由を意味するが、このことはまた、意識的であれ無意識的であれ、ヨーロッパ人が次のように言うことを意味してもいる。『私自身はできるだけ多くのお金を持ちたいが、他人にはできるだけ少ないお金しか持ってもらいたくない』」

\*非限定用法の関係代名詞 which の先行詞は前の文の内容。

5. This is a concern for face and (it) appeals to the primary means of social control in the culture, shame.

「このことは面目に対する気遣いであり、恥という、日本の文化における社会的抑制の第一の手段[日本の文化における社会的抑制の第一の手段である恥]に訴えているのである」

\*省略されている it は This を受けていて、This は前の文の内容を受けている。

6. But the price of flexibility, of being released from the tyranny of rigid, built-in patterns of behavior, is that happiness, in the sense of perfect adaptation to the environment or complete fulfillment of needs, is only briefly experienced.

「しかし人間が柔軟性のために、つまり固定した生得的な行動パターンの圧制から解放されるために支払った代償は、環境への完全な適応あるいは欲求の完全な充足という意味での幸福が、短期的にしか体験されないことである」

\*of flexibility と of being released from the tyranny of rigid, built-in patterns of behavior の言い換え。in the sense of ... complete fulfillment of needs は happiness を修飾する形容詞句の挿入。内容を正確に読み取るのはかなり難しい。

## (2) 同格の接続詞 that

1. I take this commercial to be a good piece of evidence supporting the view that the differences between adults and children are disappearing.

「私はこのコマーシャルを、大人と子供の違いがなくなりつつあるという見方を裏付ける格好の証拠のひとつだと考えている」

2. The charge that he fathered several children by her was first made by a newspaperman, James Callender, in 1802.

「彼がヘミングズに数人の子供をさせたという非難は、1802年に新聞記者のジェームズ・キャレンダーが最初に行なった」

3. The quotation from John Keats set miss Carson's theme that the indiscriminate use of pesticides was poisoning the natural world.

「ジョン・キーツの詩からの引用が、殺虫剤の無差別使用が自然界を汚染しているというカーソン女史のテーマを決めた」

4. So strong was the conviction that Japan was unique that the Japanese, though aware of course that other countries existed, tended to think of Japan as the whole world.

「日本は特異な国であるという確信がとても強かったので、日本人は、もちろん外国の存在を知ってはいたが、日本が世界のすべてだと考えがちであった」

\*the conviction と that Japan was unique の同格はむしろ平易だが、そこに「倒置」「so ~ that ...」「副詞節の挿入」「副詞節中の主語+be動詞の省略」「副詞句の挿入」も加わっている。ごく普通の英文にすれば以下の通りになる。

The conviction that Japan was unique was so strong that the Japanese, though (they were) aware of course that other countries existed, tended to think of Japan as the whole world.

英文和訳演習 (英語下線部和訳問題) 13 を参照。

cf. The reason that these rather apparent facts seem to be so generally overlooked is that we begin to learn gesture or nonverbal communication even earlier and less consciously than speech.

「こうしたむしろ明らかな事実が広く見過ごされてきと思われる理由は、私たちが仕草あるいは言葉を用いない意志の伝達を、話し言葉よりもさらに早い時期にそして無意識のうちに身につけ始めるから[こと]である」

\*この that は同格の接続詞ではなく why の代わりに用いた関係副詞である。関係副詞節は関係代名詞節と違い、主語・目的語・補語といった節の主要素は欠けていないために、一見すると接続詞と紛らわしい。同格の that は前の名詞の内容を述べているので、それが「... という」という日本語訳に表れる。

### (3) 同格の前置詞 of

1. Whether this means that childhood is disappearing is merely a matter of how one wishes to state the problem.

「このことが子供時代がなくなりつつあることを意味しているのかどうかは、人がこの問題をどのように述べたいと思うかという問題にすぎない」

2. In other words, without a clear concept of what it means to be an adult, there can be no clear concept of what it means to be a child.

「言い換えると、大人であるとは何を意味するのかという明確な概念がなければ、子供であるとは何を意味するのかという明確な概念もありえない」

= In other words, without a clear concept what it means to be an adult, there can be no clear concept what it means to be a child.

\*疑問詞の前の前置詞は省かれることが多い。したがって of を省略しても a clear concept と what 以下の間接疑問文(名詞節)の同格関係は成り立つ。

3. The question which comes first — society or the individual — is like the question about the hen and the egg.

「社会が先か個人が先かという問題は、めんどりと卵の問題に似ている」

\*The question of which comes first と of を補っても同じである。

4. As the social environment in which human growth takes place changes in its form and content, and in particular, changes in the direction of requiring no distinction between child and adult sensibilities, it is inevitable that the two stages of life unite into one.

「人の成長が生じる社会的環境がその形と内容を変え、そして特に、子供の感性と大人の感性の区別を求めない(という)方向へと変わるにつれて、人生の二つの時期が結びついて一つになることは避けられなくなる」

\*the direction of requiring ... は名詞と動名詞の同格関係だが、of を省くと requiring 以下は the direction を修飾する現在分詞の形容詞用法と解されることになる。日本語も「という」はなくても通じる。

5. Though Jefferson fearlessly pledged his life to fight the king of England and his mighty armies, he trembled at the idea of black slaves acting as freed men.

「ジェファーソンは勇敢に英国王とその強力な軍隊と命を懸けて戦うと誓ったにもかかわらず、黒人奴隷が自由人として振る舞うという考えに[と考えると]身震いした」

\*the idea of black slaves acting as freed men は「意味上の主語+動名詞」

## [5] It is ~ that ...

### (1) 仮主語

\*仮主語が見抜けない人はまずいないだろう。It is ~ の ~は 形容詞(に相当するもの)あるいは名詞(に相当するもの)であること確認しておきたい。

1. It is well known that the surrounding temperature affects people's comfort levels and their sense of well-being.

「周囲の気温が人々の快適度や幸福感に影響を与えることはよく知られている」

2. It is not surprising that as we ride the wave of evolution we have taken over the title of creator.

「私たちが進化の波に乗りながら、創造主という称号を引き継いだのは、驚くことではない」

3. It is clear that the development of human imagination is biologically adaptive; but it is also the case that we have had to pay a certain price for this development.

「人間の想像力の発達は生物学的な適応であることは明らかだが、この発達に対してある代償を払わなければならなかったこともまた事実である」

\*the case (the actual state of things) 「事実, 真相, 実情」は重要な語彙。

### (2) 強調構文

\*強調構文とは、元々完全な文中の強調したい要素を It is の後ろに置き、残りを that 以下に置いたものである。したがって強調されている要素が主語(名詞, 代名詞)の場合は、It is と that を取り除いてもそのまま完全な文として成り立つ。主語 以外の場合も、必要に応じて語順を入れ替えれば完全な文として成り立つ。

\*It is ~ that [which, who, whom, whose/when/where] ... の~は副詞(に相当するもの)あるいは名詞(に相当するもの)

1. It was only recently in the history of the human race that [when] the tables were turned.

「形勢が逆転したのは、人類の歴史においてごく最近である」

\*only recently という副詞の強調。that の代わりに when を用いることがある。この例では recently に only がついているため、It was と that を取り除くと、否定の副詞+疑問文の語順 の倒置が生じる。

Only recently in the history of the human race, were the tables turned.

2. It was the summer before my senior year in high school, in the course of a nine-week intensive exposure to Japanese language and culture, that [when] I had my first memorable encounter with Japanese literature.

「私が日本文学と最初の記念すべき出会いを果たしたのは、高校3年生になる前の夏に、9週間にわたって日本の文学と文化に集中的に接する講座を受講したときでした」

\*the summer は正しくは in the summer つまり副詞句の強調。that の代わりに when を用いることがある。

3. It is Jefferson's position on race and slavery that [which] makes him a problem.

「ジェファーソンを問題(のある人物)にしているのは、人種と奴隷制度に対する彼の立場である」

\*Jefferson's position on ... という名詞(主語)の強調。that の代わりに which を用いることがある。

4. This contrasts with the kind of controls identified with American, and Western societies generally, where it is the internal feelings, guilt, that [which] are said to guide behavior.

「これは、アメリカや西欧の社会一般と結びつけて考えられる類(たぐい)の抑制とは対照的であり、そして欧米の社会一般では、行動を導くと言われているのは罪という内的な感情である[なぜなら欧米の社会一般では、行動を導くと言われているのは罪という内的な感情だからである]」

\*the internal feelings, guilt という名詞(主語)の強調。feelings, guilt は同格のカンマ。where は American, and Western societies generally を先行詞とする非限定用法の関係副詞であり、and there 以外に because there で書き換えることもできる。American(,) and Western societies generally と the internal feelings, guilt(,) that の2つのカンマは本来は不要であり、恣意的なカンマの多用が構文を掴み難くしている。

5. It is not AIDS that [which] will slow population growth, except in a few African countries.

「アフリカの2, 3の国を除いて、人口の増加率を減少させるのはエイズではない」

\*否定文であっても強調構文に変わりはないが、It is と that を取り除くと AIDS will not slow population growth, except in a few African countries. となって not の位置が変わることになる。

cf. As electric media push literacy aside and take its place at the center of the culture, different attitudes and character types come to be valued and a new diminished definition of adulthood begins to emerge. It is a definition that does not exclude children.

「電子メディアが読み書きの能力を脇に追いやり、それに取って代わって文化の中心の座を占めるにつれて、これまでとは異なる物の考え方と人格類型が評価されるようになり、そして成年期に関する新しい縮小された定義が現われるようになる。それは[その成年期に関する新しい定義は]子供を除外しない定義である」

\*It is a definition that does not exclude children は「It is 名詞 that...」の強調構文ではない。It は the new diminished definition of adulthood を受ける代名詞で、that は関係代名詞である。

\*なお仮主語と強調については **英文和訳演習 (英語下線部和訳問題) 9** を参照。

[6] 副詞 → 接続詞, 名詞 → 接続詞

\*平易なポイントであるが、確認のため取り上げる。

1. Once he has proved himself by making money, it has served its function and can be lost or given away.

「いったん金をもうけて自分の男らしさを証明してしまえば、金はその役割を果たしたことになり、(その後は)なくしてしまおうと他人にやっつけてしまおうとかまわないのである

\*once 副詞 → 接続詞 の働き

2. Each time Galileo did the experiment(,) he obtained a different value for the velocity.

「ガリレオは実験を行なうたびに、異なる速度の値を得た」

\*each time 名詞 → 副詞 → 接続詞の働き

3. Everywhere the Romans went, they brought their language with them.

「ローマ人は行くところ何処にでも[行く先々に]、自分たちの言語を持ち込んだ」

\*everywhere 副詞 → 接続詞の働き

4. The next time you take a walk, no matter where it is, open up your eyes.

「次に散歩をするときは、(それが)どこであろうとも、しっかり目を開けていなさい」

\* (the) next time 名詞 → 副詞 → 接続詞の働き

no matter where it is=wherever it is は譲歩の副詞節

5. By studying why things happened the way they did, one can often learn important lessons.

「なぜ物事がそのように起こったのかを研究することによって、人はしばしば大切な教訓を学ぶことができる」

\*By studying why things happened (in) the way (how) they did

the way 名詞 → 接続詞の働き (the way は 接続詞 as に相当) did は happened の代わりにの代動詞

[7] 前出の名詞を受ける that [those]

\*前出名詞を繰り返す代わりに用いる代名詞の that [those] は必ず後ろに修飾語句(節)を伴う。この that は常に前出の単数形名詞, those は常に前出の複数形名詞を受ける点で、やはり前出名詞を繰り返す代わりに用いる代名詞の one [ones] と異なるが、後ろに修飾語句(節)を伴った、the one [ones] が、that [those] の代りをするにはある。この that [those] は同一センテンス内の語を受けるのが原則だが、例外(誤用)も見られる。

1. Although animals dream, and sub-human primates certainly show some capacity for invention, the range of human imagination far outstrips that exhibited by even the cleverest ape.

「動物も夢を見るし、人間に近い霊長類は確かに創意工夫の能力をある程度は発揮するものの、人間の想像力の範囲は、最も頭のよい類人猿が見せる想像力の範囲でさえもはるかに超えている」

\* that = the range of imagination であって the range of human imagination ではないことに注意。the range of human imagination という前出名詞そのものを受け代名詞は it であり、it の後ろに修飾語句(節)を伴うことはあり得ない。  
The climate of Japan is milder than that of England. = Japanese climate is milder than Englishh climate. → Japanese climate is milder than that of England. が最も分かりやすい例であろう。

2. Almost all of the characteristics we associate with adulthood are those that are (and were) either created or developed by the requirements of fully literate culture.

「私たちが成年期と結びつけて考える特徴のほとんどすべてが、十分な読み書きの能力の上に成り立つ文化が要求するものによって生み出されるか、あるいは発達するかどちらかの特徴であり、(そして過去においてもどちらかの特徴であった)」

\* この例では、前出名詞の the characteristics 自体が (that) we associate with adulthood という関係代名詞節で修飾されているので、those が受けているのは the characteristics という前出名詞そのものである。

3. The adult-child may be defined as a grown-up whose intellectual and emotional capacities are not yet matured and, in particular, not significantly different from those associated with children.

「アダルト・チャイルドというのは、その知的能力と感性的能力がまだ成熟していません、特に、子供と結びつけて考えられるそうした能力と大差がない大人と定義されるだろう」

\* those = the intellectual and emotional capacities

4. Yet Jefferson insisted that American slavery was not as bad as that of the ancient Romans.

「しかしジェファーソンは、アメリカの奴隷制度は古代ローマ人の奴隷制度ほど悪くないと主張した」

\* American slavery was not as bad as the ancient Romans' slavery と同じ意味。  
この例文も slavery という語の繰り返しを避けるために that を用いたもので、that = the slavery である。

5. While he had no apprehensions about mingling white blood with that of the Indian, he was totally against the breeding of children between blacks and whites.

「彼は白人の血がインディアンの血と混ざるとは少しも心配しなかったものの、黒人と白人の混血児を生むことには絶対に反対であった」

\* mingling white blood with the Indian's blood → mingling white blood with that of the Indian したがって that = the blood である。

[8] so that ... (副詞節)

(1) 目的

1. One soft-drinks vending machine company built sensors into the fascia so that when a potential customer approached, the machine would detect his presence and utter the phrase Irasshaimase.

「ある清涼飲料水の自動販売機の会社が、客になる可能性のある人が近づくと機械がその存在を感知して『いらっしゃいませ』という言葉が発するように、前面部にセンサーを組み込んだ」

\* so that may [can, will] ... 「... するために, するように, できるように」という目的を表す副詞節。

2. In this zone, the wrist zone, people position themselves so that, if they wanted to, they could touch each other with their wrist.

「この地域つまりリスト・ゾーンでは、人々は、もしそうしたいと思えば、手首でお互いの体に触れることができるように、自分の位置を定める」

\* this zone, the wrist zone は同格のカンマ。if they wanted to は前後カンマによる副詞節中の副詞節の挿入。

3. Expression of happiness even should be controlled so that it does not displease other people.

「喜びの表現でさえも、それが他人を不愉快にしないように、抑制されるべきである」

\* 「目的」の so that には助動詞 (may/can/will, 否定文では may not/will not/should not) を用いるのが原則だが、このように助動詞を用いないこともある。

(2) 結果

1. Thanks to the natural resources of the country, every American could reasonably look forward to making more money than his father, so that, if he made less, the fault must have been his.

「この国の天然資源のおかげで、アメリカ人は誰でも、父親よりも余計に金を稼ぐことを当然期待できたので(その結果)、もし父親より稼ぎが少なければ、その責任は必然的に本人にあった」

2. The dying are shut away in hospitals so that few experience death at close hand.

「死にゆく者は病院に閉じ込められるので(その結果)、死を身近に経験する者はほとんどいない」

\* 「so の前にカンマがなければ目的、あれば結果」と書いてある参考書等もあるが、それは目安のひとつにすぎない。カンマの有無も助動詞の有無も、目的か結果かを



判断する決め手にはならない。結局は文脈次第である。カンマの有無は、書き手の文体によるところが大きい。

cf. I left home early in the morning so that I could caught the first train.

「私は始発の電車に間に合うように、朝早く家を出た」(目的)

「私は朝早く家を出たので、始発の電車に間に合った」(結果)

[9] so ~ that ... / such ~ that ...

\* 「とても～なので... する [... するほど(とても)～]」 ～は形容詞・副詞以外に、動詞や動詞の過去分詞のこともある。

1. Their reaction time was so long in comparison with the travel time of light that the light rays from their lanterns could travel completely around the earth fourteen times if we assume their reaction time was one second each.  
「彼らの反応時間が、光が伝わる時間と比較してあまりに長かったので、もし二人の反応時間がそれぞれ1秒だと仮定すると、二人のカンテラから出た光線は完全に地球を14周できたのである」

2. The first is what Desmond Morris calls the elbow zone, where people stand so close that they can touch each other with their elbows.  
「最初の地域はデズモンド・モリスがエルボー・ゾーンと呼ぶ地域で、この地域では人々は肘でお互いの体に触れることができるほど接近する [この地域では人々がとても接近するので、肘でお互いの体に触れることができる]」

3. As human beings, we are so self-centered that one death which touches us personally, even the thought that someone whom we love might die, upsets us more deeply than the deaths of any number of people whom we do not know.  
「人間として、私たちは非常に自己中心的であるために、個人的に自分の心に触れる一人の人間の死が、それどころか愛する者が死ぬかもしれないと考えるだけでも、自分の知らないどんなに多くの人間の死よりも私たちを深く動揺させる」

\*even the thought that は同格の that で、この箇所は次のように言い換えることができる。

even if we think (that) someone whom we love might die, we are upset more deeply than at the deaths of any number of people whom we do not know

4. Eventually the differences became so great that the people of one region could not understand the speech of the people from another region.  
「ついには、その相違がたいへん大きくなったために、ある地域の人々は別の地域から来た人々の言葉を理解できなくなった」

5. One afternoon Professor Edwin McClellan of the University of Chicago delivered a lecture on Japanese poetry which so inspired me that later, wide-eyed with excitement, I was able to repeat it almost word for word to a friend.

「ある日の午後、シカゴ大学のエドウィン・マックレラン教授が日本の詩歌について講義をしたのですが、この講義は私を大いに感激させたので [私はこの講義に大いに感激したので]、後になってからも、興奮のあまり目を丸くして、友人にこの講義をほとんど一語一語忠実に再現して聞かせることができた」

\*so inspired me that ... は「so 動詞 that ...」 wide-eyed with excitement は being を省略した分詞構文の挿入

6. He was so (greatly) surprised that he couldn't utter a word.

「彼はとても (大いに) 驚いたので [驚きのあまり]、一言も喋れなかった」

\*副詞の greatly を省略すれば「so 過去分詞 that ...」になる。

7. His surprise was such that he couldn't utter a word.

「彼の驚きはとても大きかったので、一言も喋れなかった」

\*この such は代名詞。これを C+be+S の倒置にすると Such was his surprise that he couldn't utter a word. となる。

7. She was so kind (a girl) that she helped me with my assignment.

=She was such a kind girl that she helped me with my assignment.

\*この so は kind を修飾する副詞。such は a kind girl を修飾する形容詞。

## [10] so ~ that ... / such ~ that ... 構文の補足

### (1) so ~ that ...

\*この so を very の意味にとって「とても～なので...する」という日本語訳を当ててるのがほとんど定番になっている。一般的にはそれで差し支えないが、しかし主節が否定文のときに、この構文・相関語句の本質が明らかになる。

She was not so kind (a girl) that she helped me with my assignment.

という英語に「彼女はそれほど親切(な女性)ではなかったので、私の宿題を手伝ってくれた」という日本語訳を当てて違和感を持たない人はまずいないだろう。当然「彼女はそれほど親切(な女性)ではなかったので、私の宿題を手伝ってくれなかった」と訳すはずである。これを「彼女は私の宿題を手伝ってくれるほど(それほど)親切ではなかった」と後ろから訳せば十分に意味が通じる。

つまり、もともと主節が肯定文であっても「彼女は私の宿題を手伝ってくれるほど(それほど)親切だった」と that 節を主節にかけて訳すのと同じである。

要するに、so ~ that ... を元の英語のニュアンスを生かして日本語に移し替えると、「彼女はそのように親切だった、そのようにとはどのようにかという、私

の宿題を手伝ってくれるように[ほど]』ということになる。主節が否定文の場合には、「彼女はどのように[それほど]親切ではなかった、そのように[それほど]とはどのように[どれほど]か」というと、私の宿題を手伝ってくれるようには[ほどは]』ということになる。したがって、要注意なのは主節が否定文のときに意味を取り違えないことである。

主節が肯定文の場合も This wooden bridge is so built that heavy trucks can cross over it. のような文は、意味上は This wooden bridge is so strongly built that heavy trucks can cross over it. と変わらないが、strongly という副詞がないので、日本語では「この木の橋は重いトラックでも渡れるように出来ている(≒渡れるほど頑丈に出来ている)」という訳語を当てることになる。

## (2) so と such の違い

\*この構文のポイントは so と such の違いである。so の後に名詞が来るときは、必ず可算名詞の単数形、つまり a+単数形名詞が来る。後の名詞が可算名詞の複数形や不可算名詞の場合、つまり a を伴わない場合には so ではなく such を用いる。したがって This is so good milk that they drink it everyday. は誤りで、This is such good milk that they drink it everyday. が正しいことになる。例外は so+数量形容詞の場合で、so many[few] boys や so much[little] money は正しい用法である。

so と such の違いに相当するのは、感嘆文に用いる How と What である。

How beautiful a flower this is! (正) how[副詞]

How beautiful flowers these are! (誤)

What a beautiful flower this is! (正) what[形容詞]

What beautiful flowers these are! (正)